

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年12月28日 (2016.12.28)

【公表番号】特表2016-504058(P2016-504058A)

【公表日】平成28年2月12日 (2016.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2016-010

【出願番号】特願2015-539837(P2015-539837)

【国際特許分類】

A 6 1 M 25/10 (2013.01)

B 0 5 C 13/00 (2006.01)

B 0 5 D 1/28 (2006.01)

B 0 5 D 7/00 (2006.01)

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

B 0 5 C 1/06 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 M 25/10

A 6 1 M 25/10 5 0 0

B 0 5 C 13/00

B 0 5 D 1/28

B 0 5 D 7/00 K

A 6 1 M 25/00 5 0 0

B 0 5 C 1/06

【手続補正書】

【提出日】平成28年11月8日 (2016.11.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

コーティング装置であって、

コーティング塗布ユニットを備え、前記コーティング塗布ユニットが、

流体アプリータ、

第 1 の回転機構及び第 2 の回転機構、並びに

制御装置

を備え、前記制御装置により、前記第 1 の回転機構及び前記第 2 の回転機構が、実質的に同じ速度で医療器具を回転させ、前記速度が、500 回転 / 分を超える速度である、コーティング装置。

【請求項 2】

前記第 1 の回転機構及び前記第 2 の回転機構が固定され、前記コーティング塗布ユニットが、前記医療器具の長手方向軸の方向に移動する、請求項 1 に記載のコーティング装置

。

【請求項 3】

前記第 1 の回転機構及び前記第 2 の回転機構の少なくとも一方に動力を供給する電気モータをさらに備える、請求項 1 ～ 2 のいずれか 1 項に記載のコーティング装置。

【請求項 4】

前記流体アプリータに流体連通した流体ポンプをさらに備える、請求項 1 ～ 3 のいずれ

れか 1 項に記載のコーティング装置。

【請求項 5】

前記流体アプリータが、接触流体アプリータを含む、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載のコーティング装置。

【請求項 6】

前記流体アプリータが U 字溝を備える、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のコーティング装置。

【請求項 7】

前記流体アプリータの U 字溝が、横方向中心点から離れる曲率半径を有する、請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載のコーティング装置。

【請求項 8】

前記第 1 の回転機構及び前記第 2 の回転機構が、バルーンカテテルを回転させるように構成されている、請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載のコーティング装置。

【請求項 9】

コーティング方法であって、

回転機構を用いて 500 回転 / 分を超える速度で医療器具を回転させるステップと、

前記医療器具に流体アプリータを接触させるステップと、

前記流体アプリータを用いて前記器具にコーティング液を塗布するステップと

を含む、方法。

【請求項 10】

前記医療器具を前記第 1 の回転機構及び前記第 2 の回転機構で固定するステップをさらに含む、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記流体アプリータを前記医療器具の長手方向軸に沿って移動させるステップをさらに含む、請求項 9 ～ 10 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 12】

前記流体アプリータを用いてバルーンの表面にコーティング液を塗布するステップが、前記医療器具の表面と前記流体アプリータとの直接接触によって達成される、請求項 9 ～ 11 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 13】

前記コーティング液が、1 ～ 50 センチポアズの粘度を有する、請求項 9 ～ 12 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 14】

前記コーティング液が、50 ～ 5000 センチポアズの粘度を有する、請求項 9 ～ 13 のいずれか 1 項に記載の方法。